

兵庫県医師会医療支援チーム（第7陣）「宮城県災害支援現地報告」

理事 蓮尾 春輝

第7陣として、4月3日～4月6日（蓮尾）、4月4日～4月6日（魚橋）
石巻中避難所での診療体制はかなり確立していましたが、住吉中は体育館に移転、
山下小は新設で戸惑う感じもありましたが、後藤課長が居残ってくれたので助かりま
した。

しかし医師二人では診療だけで手一杯でした。魚橋先生には石巻中を一人で頑張っ
て頂き申し訳なかったと思っています。

訪問診療に一緒に来てくれたキャンパスの看護師（日本看護協会のボランティア）
が二人いたのですが、避難所で夜間は自分達だけで医師との連絡もできていないので、
他所へ移りたいと言っていたのですが、翌日から居なくなりました。（翌日、学校長
の抗議があり、復帰したかもしれません）

診療していて最も印象深かったのは、訪問診療で診た40才の女性でした。

車の運転中、津波に流され車が沈み、やっと脱出してさらに、津波に流され、小学
校の野球のバックネットにひっかかり首までつかりながら、両手でバックネットの金
網にしがみつき、三時間、水が少し引いて更に二時間、児童の通報でやっと救出され
たが、自分で指がかたくなり、抜けなかったそうです。

助けられた避難所に看護学生達が避難していて、彼女達の体温で温められて九死に
一生を得たとの事でした。しかし、診ると指の色は悪く動きも悪いので、早急に診て
もらうよう、アドバイスして帰りました。

診療所でも同様の経験があった人はかなり居たと思います。そういう人は堰を切っ
たように喋り出し、どこで止めようかと困った事もありました。